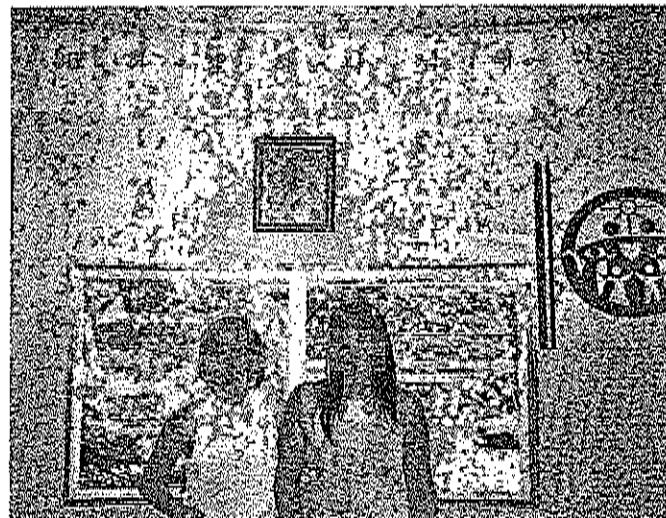


4/29
3.24

集団結婚でブラジルに渡った男性



小野田庄一さんのブラジル人のパートナー（左）
＝2003年、ブラジル統一協会の施設（一部加工）

統一協会（世界平和統一家庭連合）は、世界で勢力を拡大するため、日本の資金と人材と資金を出させていました。たな海外で何をしていましたか、日本ではほとんど知られていません。「海外伝道」の実態を伺いました。（統一協会取材班）



で語り掛け、ボールペンを売ります。

物売りをしていた男性は、小野田庄一さん（40代）＝ペーパーメー。日本から60本ほどのボールペンを持ち、バッグを持って、男性がブラジル中西部の街を歩いていました。レストランの記念写真と、出入りする施設正面のポルトガル語

開祖の指示

「日本田で一本一千円

60本ほどのボールペンをブラジル渡り統一協会の活動をしていました。

60本ほどのボールペンをブラジル渡り統一協会の活動をしていました。

地域施設で、20～30人の現地住者と共同で生活。午前6時から午後7時までひたすらボールペンを売る生活でした。

地域住者は厳格で、活動は開祖文鮮明の指示だから、「犠牲は当然だ」という姿勢で語めてきたといります。

結婚生活は極端の連續でした。相手は「カナダに留学できる」「日本人と結婚できる」と誘われて入会。

信印があるわけでもなく、言葉も十分に通じず、頻繁にけんかをします。しかし地域責任者は「彼で彼女を受け止める」と頼むしか

ひたすらパン売り

1500円だ。ボランティアもくわで売った。売り上げは全部協会の地域責任者に渡した。私への手当？ もう

らなくてない！」

小野田さんは17歳のとき、日本で統一協会に入会しました。2002年に東京総局に参加。協会が選んだ相手は「ブラジル人」です。

渡航した当初は「アラカルト中西部にあつた統一協会の地域施設で、20～30人の現地住者と共同で生活。午前6時から午後7時までひたすらボールペンを売る生活でした。アラカルト中西部の地域住者は厳格で、活動は開祖文鮮明の指示だから、「犠牲は当然だ」という姿勢で語めてきたといります。

自分で調べていろいろに、文鮮明がメシヤ（救世主）でないことを察づき、34歳で脱退します。

脱退後、妻子とともに日本に帰国した小野田さん。自身の経験を電子書籍「カルトからの血性脳卒」（ブラジルまでの苦悽の体験記）に記しました。「統一協会はこのままは悪の組織に加担する」とだから、決別を決意した。操縦を止め以上許してはならない」との思いを込めています。

都市に移り、夫婦で家を借りて生活。ただ資金がありません。今度は自らの生活費を稼ぐためボールペンを売ります。「家庭を持ったお金がいるのに当時は借り入り込みすぎて、何も考えてなかっただ。『神様が守ってくれる』と帶えてい

「売り上げは全部ささげよ」

■調べ気付く

しづかいいこ／別の地方